

## I はじめに

「ドッキリカメラ」は、テレビ放送が始まった頃の視聴者参加バラエティーから生まれた企画で、1970年代に入って番組として独立し人気を得た。出演者を予想もしない状況に追い込んで、そのあわてふためく姿を楽しませようとするものである。状況は出演者に内緒で設定され、隠しカメラがその一部始終を写し出す。人気番組となつてからは、出演者は、テレビでの露出を一番に考え、そういった設定を納得できる芸能タレントを主としていた。しかし近年、ドッキリカメラはサプライズ企画等々と称してその出演者を一般視聴者にまで広げている。

今回、FNS 27時間テレビ「ハッピー筋斗雲」(フジテレビ 2007年7月28日放送)が放送倫理上の問題を指摘されるに至ったのは、この一般視聴者にドッキリカメラを仕掛けるに当たっての倫理に欠けるところがあったためである。また、こうした倫理の欠如は単に当該企画に止まらず、現在の視聴者参加バラエティー一般にも言えることなので、ここに問題点を明らかにすることとした。

放送倫理検証委員会は、このサプライズ企画の対象となった人から放送倫理に関わる指摘を受け、2007年9月14日、FNS 27時間テレビ「ハッピー筋斗雲」の放送内容、関係資料の検討を開始した。その結果、番組の企画・制作の在り方に放送倫理上の疑義があると判断し、番組出演者及び関係者へのヒアリングを実施して、フジテレビにも説明と資料の提出を求めた。そして、4回(10月12日、11月9日、12月14日、1月11日)にわたる審議を重ね、本意見を取りまとめた。